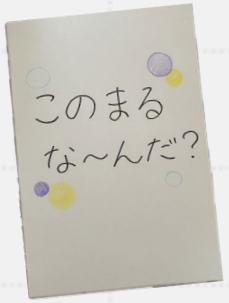
～認定絵本士資格について～

執筆：じょあ

認定絵本士資格とは、保育の現場だけではなく、将来地域でのお話会などにも活かすことができる資格です。この資格では、講義や演習を通じて絵本に関する様々な知識を身につけるとともに、悲しい絵本や面白い絵本など、多様な作品に触れることで感性を養うことができます。今回は、３０コマにわたる授業の中で、私の中で特に印象に残った授業や授業を通して学んだことについてご紹介します。

・製作の授業

絵本の内容について学ぶだけではなく、絵本を読む前の「導入」として活用できる製作活動も行いました。製作の時間になると、クラス全体が集中し、それぞれが時間いっぱいまで取り組んでいたのが印象的でした。ただ作って終わるのではなく、完成した作品をクラスの前で発表する機会があったことで、実習への自信につながりました。また、紙コップや封筒など、身近な素材を使った製作は、手軽に何個も作れるため、実践的で保育の現場でもすぐ活かせることができると感じました。



・絵本編集者による授業

この授業では、絵本編集者の方から、絵本がどのように作られているのか、絵本を制作する際に大切にしていることについて学びました。実際に現場で活躍されている絵本編集者のお話を聞くことができ、とても貴重で勉強になりました。普段は、読む側として手にする絵本が、たくさんの工夫や思いによってつくられていることを知り、絵本への見方が大きく変わりました。授業を通して学んだ作者の込められて思いを感じながら、子どもたちにもその魅力を伝えていきたいと感じました。

・認定絵本士資格の授業を通して

私は、最初「絵本」と聞くと、子どもが読むものという印象が強く、大人が絵本を読むことに対してどこか恥ずかしさを感じていました。しかし、授業の中で、先生方や友人が絵本を紹介する機会があり、「この絵本おもしろそう！」「続きが気になるな」と感じるようになり、少しずつ絵本に興味を持つようになりました。学内の図書館にある絵本コーナーに行ったり、書店でも自然と絵本を手に取ってみたりするようになりました。また、大人向けの絵本も存在することを知り、自分も読んでみたいと思うようになりました。

授業では、絵本の持ち方や読み方についても学ぶことができ、実習で先生から読み聞かせを頼まれた際には、不安なくスムーズに読むことができました。絵本を読んでいると、子どもたちが物語の展開に驚いたり、読み終った後に「面白かった！」と反応してくれたりする姿を見て、絵本が子どもに与える力の大きさを実感しました。

私にとって思い出深い絵本は、幼稚園の先生が読み聞かせてくれた絵本です。将来は、子どもたちに絵本の楽しさや魅力を伝え、絵本を読むことをもっと好きになってもらいたいなと感じます。